

中露、長期懸案の大規模ガス供給契約に合意

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

ついに、中露間のパイプラインによる天然ガス供給契約が合意に達した。5月21日、ロシア・ガスプロムと中国・CNPCは、2018年供給開始予定で、年間380億立米（LNG換算約2800万トン）のガスを30年間にわたって供給する契約が合意に達したと発表した。ガスプロムのミレル社長は、この契約のガス販売の総額が4000億ドルとなるとの見方を示した。歴史的な、大規模契約の合意成立と言っても良いだろう。

「ついに」、と冒頭で記したのは、中露間のガス供給契約に関する交渉が10年余りにわたって続いてきた「超マラソン交渉」であったためである。アジアに販路を確保し欧州市場依存からの多角化を図るロシア、ガス供給を確保し増大する需要に対応したい中国の双方にとって、両国間での大規模ガス取引は相互補完的な、戦略的な重要性を持つものであった。にもかかわらず、特にガス販売価格面での双方の主張に大きな隔たりが残り続け、ここまで歳月が経過してきたが、ようやく昨年9月に、価格面を除き、全ての基本条件に合意するところまでたどり着いていた。まさに今回の交渉と合意は、最後に残った険しい山頂を攻略し、登りつめたもの、と見てとれる。

最後の難関であった価格面での合意に関しては、今回は両者から内容の発表は無かった。しかし前述した契約金額（4000億ドル）と総契約数量（380億立米×30年）から逆算すると、平均のガス供給価格は、約350ドル/1000立米（約9.8ドル/100万BTU）となる。この金額は、現在のガスプロムによる欧州（西欧）市場での販売価格にほぼ等しい。なお、上記の計算は総額同士を単純に除した「平均」で、実際にはプロジェクトの立ち上がりとガス供給量の変化を勘案する必要があり、370～380ドル/1000立米（10.4～10.6ドル/100万BTU）ではないか、との推測も市場関係者の間にある。より高い販売価格を希望するロシアと、より安い調達を狙う中国の間の最後の妥協が、ロシアにとっても中国にとっても参照基準となる、欧州での販売価格水準に落ち着いた、と見ることができよう。

このプロジェクトの実施のためには、供給源となるガス田（チャヤンダ、コヴィクタ）の本格開発、パイプラインの建設が不可欠である。供給開始予定まであと4年余りであり、急ピッチでの開発・建設が求められる。ロシア側の見立てでは、ガス田開発とロシア領内でのパイプライン建設だけで550億ドルの大規模投資が必要とされ、そのファイナンスも重要なポイントになる。今回の合意に関しては、中国側が前払いで250億ドルを支払う、

とも報道されており、これも合意に至る重要なポイントとなったと見られる。なお、中国領内のパイプライン建設は CNPC が担当することとなっている。

実際のガス供給には、これから大規模な初期投資が必要なことを考えると、今回の合意による販売価格でロシア（ガスパロム）が受け取ることになる、コストを差し引いた「利益」は、欧州向け販売（ほぼ同額での販売価格）から得られる「利益」より小さくなるとの見立てが多い。だからこそ、ガスパロムにとっては必死の交渉であり、欧州向け価格より割安での調達を求めてきたとされる中国側の強い要求と正面からぶつかり、合意が難航した。しかし、今回の合意で 2018 年以降にはなるがガスパロムにとっては巨額のガス販売収入を欧州以外の販路から確保することが確実にされたことは大きい。

今回の中露間の合意は、上述の通り大規模かつ歴史的な合意であると言って良いが、さらに単なるガスあるいはエネルギーを巡る合意を超えた、両国間の戦略的な連携強化という重要な意味を見出すこともできる。何と云っても、今回の合意発表は、5 月 20-21 日に上海で開催された「アジア信頼醸成措置会議（CICA）」首脳会議とタイミングを合わせたものとなった点に注目すべきである。同会議では、主催国・中国の習近平国家主席が「アジアの安全はアジアの人々が守るべき」との趣旨の演説を行い、アジアの安全保障を巡る新秩序を中国が主導して打ち立てていきたいとの姿勢を示した。会議にはロシア・プーチン大統領やイラン・ロウハニ大統領を始めとする各国首脳が参集し、21 日には、信頼醸成に基づくアジアの安全保障枠組み構築を目指すとした「上海宣言」が採択された。この会議と上海宣言が、アジアへの関与を強め「リバランス」「ピボット」を打ち出しアジア外交を展開している米国を意識したものであることは間違いない。ロシアにとってみれば、ウクライナ情勢の緊迫化が続く中、米欧からの経済制裁を始めとする厳しい締め付けが進められる中、中露連携強化を示すことは戦略的・地政学的観点からも極めて重要であったと考えられる。このような状況下、中露両国を取り巻く国際政治の中で、大規模ガス供給契約の合意が成立したのである。

今回の契約合意は、実際のガス供給開始と両国の相互依存関係強化に至る重要なステップである。しかし、今回の合意はあまり詳細内容が明らかになっていない中で、実現に向けては、ガス供給源の確保、パイプライン建設など取り組むべき課題も多く、今後の実際の展開に注目していく必要がある。また、今回の中露間のガス供給契約が、中国のガスおよびエネルギー需給バランス、中国の天然ガス・LNG 調達戦略、アジア・太平洋地域のガス・LNG 市場の需給バランス、等にどのような影響を及ぼすのか、も見逃すことのできないポイントになる。また、ロシアが日本及びアジア市場向けに取り組む様々な LNG・天然ガスプロジェクトに関して、今後どのような取り組みを見せるかも興味深い。中国との戦略的な関係強化に踏み切ったロシアであるが、中国の重要性が高まれば高まるほど、「バランス」を取る必要性もロシアにとっては大きくなる。その状況下、ロシアの対日・対アジア戦略がどう展開されるのか、わが国はそれにどう向き合うべきなのか、流動化する国際情勢の中で正確な情勢分析が求められていこう。

以上